



YCS【ゆりコミュニティ・スクール】通信

第1号 令和5年6月29日発行

本校が学校運営協議会を設置して、コミュニティ・スクールになり6年目になりました。委員は、今年度、新しい委員の方々6名を含み15名です。また、6月15日に、第1回学校運営協議会を本校を会場に実施しました。由利本荘市教育委員会学校教育課コミュニティ・スクール協働コーディネーターの板垣一恵様、委員の皆様には、本校児童生徒の学習の様子を直接ご覧頂き、その後の協議では今年度の学校運営方針の承認、それについてのご提案や助言等をいただいております。今号では、その様子をお知らせいたします。

構成メンバーの紹介

- ◎学校運営協議会委員 (○印は新任)
- 遠藤千代子 氏 (由利本荘市健康福祉部福祉支援課長兼福祉事務所長)
 - 佐々木美佳 氏 (にかほ市市民福祉部福祉事務所福祉課長)
 - 尾留川 等 氏 (つるまい福祉会 水林新生園施設長)
 - 佐藤宇右工門 氏 (本荘公共職業安定所 所長)
 - 羽川 毅郎 氏 (由利本荘地域生活支援センター 所長)
 - 佐々木紀子 氏 (由利本荘市教育委員会学校教育課 参事兼課長補佐)
 - 安倍 武義 氏 (元本荘北中学校長)
 - 大須賀 修 氏 (にかほ市教育委員会教育研究所 指導主事)
 - 泉谷 昶馬 氏 (由利本荘青年会議所 理事長)
 - 鷹島 直子 氏 (障がい者支援事業所「逢い」サービス管理責任者)
 - 大場ひろみ 氏 (文化交流館カダーレ 館長)
 - 熊谷 甚悦 氏 (鳥海山木のおもちゃ館理事長)
 - 小石 隆 氏 (浜ノ町町内会 会長)
 - 佐藤 徹 氏 (学校後援会副会長)
 - 細矢 朋明 氏 (ゆり支援学校PTA会長)

- ◎本校コミュニティ・スクールディレクター 作佐部博美氏 (今年度より)
- | | | | | |
|-------|---------|-------|---------------|--------|
| ☆本校職員 | 校長 | 近藤 千晴 | 教頭 | 阿部 裕子 |
| | 教頭 | 時田 航 | 事務長 | 小野 弘美 |
| | 小学部主事 | 畠山 千恵 | 中学部主事 | 菊地 正紀 |
| | 高等部主事 | 加藤 俊和 | 主任寄宿舎指導員 | 佐藤菜穂子 |
| | 進路指導主事 | 工藤 思郎 | 地域支援部主任 | 佐々木弘美 |
| | 総務部主任 | 渡辺美樹子 | 小学部副主事 | 長谷川絵美子 |
| | 中学部副主事 | 高橋 直子 | 高等部副主事 (CS担当) | 大庭せい子 |
| | 高等部1年担任 | 畠田 昌裕 | | |



全校の授業参観



学校経営説明・承認



意見や感想を交換

話し合いの内容

◇会長、副会長の選出 ・事務局一任により **会長** 安倍 武義 氏 **副会長** 尾留川 等 氏

◇学校経営説明（近藤千晴 校長）◇

- ・平成11年開校当時の児童生徒数は42名だったが、今や125名で当時の3倍になっている。これまで以上に児童生徒個々に応じた支援が求められる。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが5類に移行したことにより、行動制限が緩和され、様々な活動が徐々に再開されてきている。学校としての教育的なねらいを再度確認し、地域の皆さんにも得るものがあるような双方向の交流を目指したい。
- ・その子なりの自立に向けて、一歩ずつ成長していくことができるよう、個々の教育的なニーズに合わせた適切な教育活動を展開する。そしてコミュニティ・スクールを活用し、本校の特色ある教育活動を推進すること、そして地域との交流や積極的な地域貢献を通し、地域を元気にしたい。
- ・小学部から高等部までのつながりを意識して一貫した教育を行う。地域・学校との交流を積極的に行い、地域における障害理解を推進し、居住地の小・中学校に個別に出かけたり、学年・学部単位で交流したりする予定。また併せて、ミニ学校展の展示場所の新規開拓、ホームページやマスコミなどへの情報提供など、より効果的な発信を意識していきたい。
- ・特別支援教育の専門性を高めるために、様々な立場で知恵や力を合わせて、質の高い教育活動の充実を目指す。また、昨年度あきた病院内の道川分教室が閉室となり、今年度から秋田きらり支援学校に移管された。長年に渡り蓄積してきた病弱、重度・重複児の教育についてのノウハウは、しっかりと引き継いでいきたい。
- ・小・中学校を中心に本校職員が出向き、様々な障害や、その対応等について学ぶ障害理解学習を実施し、理解者を増やすことで、共生社会への種まきをしたい。地域の生涯学習団体等との連携による児童生徒の居場所づくりや活躍の場ができれば、休日や卒業後の余暇活動にもつながるため、様々な情報を収集し、接点を作りたいと考えている。
- ・寄宿舎は、日常生活の身辺処理や家事、調理活動、そして集団生活の中でのコミュニケーションなどを学ぶ機会にもなっている。そのほか、寄宿舎指導員が授業の中で講師となり生活面の指導をする等、寄宿舎がもつ機能を有効活用する。地域の人材や資源を取り入れた多様な教育活動については、ボランティアで様々な方々に来ていただき、多様な経験ができるようにしている。地域に出向いて花植、除雪など地域に貢献する活動は、作業学習など様々な学習の一環として行っている。周りの方に支援していただくだけでなく、自分たちが役に立てるという経験は、自信につながり、誇りをもって生きることにもつながる。

◇寄せられたご意見（抜粋）◇

- ・「余暇活動や生涯学習の充実に向けて」場の提供等行政や教育委員会と連携して考えていきたい。
- ・初めて授業を参観した。これまでの実績や今年度の予定を知り、想像以上に取り組んでいることを知った。障害者理解が課題であり、行政としても課題と思っている。今後も取り組んでいきたい。
- ・生徒が目をは輝かせながら学習していた。掲示物の文字がていねいできれいであった。由利本荘管内の障害者雇用につなげるため、今後も事業所理解を促進したい。
- ・実習を受け入れている。当センターでも地域との交流を行っていきたい。ゆり支援とコラボ等で出来ることを考えるきっかけになった。
- ・これまでの教育では上手くいかないことがあり、変えざるを得ないものもある。(ICTの普及やグローバル、インクルーシブ等) 変えたくないものが人とのつながり。ゆり支援の児童生徒は、素直でひたむきで活動に丁寧に取り組んでいる。その姿は、地域を元気にしている。根気強く伝えていきたい。
- ・特別支援学級在籍の児童生徒の増加、多様化、授業づくりの難しさ、不登校、就労支援等で地域の特別支援教育の充実に向けて連携していきたい。
- ・カダーレを利用(就労促進フェア) いただくこと、ありがたい。授業を見ることができ、児童生徒を知ることができたが、地域の方にはまだ理解が広がっていないと思う。知らせる場としてカダーレを利用し、啓発していただきたい。
- ・学校外での交流をどうやっていくか。地域の理解は、ミニ学校展の開催はどうか。進路については、受け入れ先の新規開拓を行ってほしい。